

社会福祉法人新栄会 オルト保育園

○ 令和6年度 東京都すくわくプログラム
ひ5歳

概要

ねらい

環境構成

子ども達の様子

振り返り

保護者との共有

テーマ

宇宙

プラネタリウム 惑星 星

ねらい

プラネタリウム見学をきっかけに
星、星座、宇宙に興味を持つ
姿が見られたため、それぞれの
グループに分かれ対話を通じて、
興味関心を探究していった。



環境構成 スケジュール

- プラネタリウム：蛍光絵具・ブラックライト・布
- 星：紙粘土・絵具
- 惑星：発泡スチロール・アクリル絵の具・段ボール
- 共通：星、惑星の図鑑
- 少人数ごとにグループに分かれ、対話をしながら行っていった。

8月	プラネタリウム作り開始（話し合い、光る素材探し、星空作り） 星づくり開始（調べる、話し合い）
9月	プラネタリウムごっこ（作ったもので遊ぶ、別のプラネタリウム作り）
10月	惑星づくり開始（一人ひとりの惑星を描く）
11月	惑星作り（地球、土星作り）
12月～1月	星づくり（形作り、土星、地球、ブラックホール作り）

プラネタリウムチーム

1. 段ボールでプラネタリウムを作りたいと複数名で話し合ってから作り始める。
2. 星のように光る素材を探す。(蛍光ペン、蓄光シール、蛍光絵の具、ブラックライト)
3. 不織布に蛍光絵の具を使用して星空を作る。
4. 新たなプラネタリウムを作り始める
5. 2つのプラネタリウムを作合わせて改良していく。



子ども達の様子

- ・キャプテンやリーダーという役割を担いながら集団で話し合いを進めようとしていた。
- ・光る素材を探すが、難しく保育士から素材について提案をすると、子どもの想像に近いものを選び、光る様子を探る姿があった。
- ・プラネタリウムを作る中で、星座に興味を持ち、形だけでなく星に名前があることや物語などに関心を深めたり、自分たちが知っている事や大人や他児に共有していきながら深めていく様子が見られた。

星チーム

1. 図鑑を見て興味を深めていく。
 2. 星、星座に興味を示して、調べる。
 3. 紙粘土と絵の具を使って作る。
- 図鑑等を見ていると、星によって光の強さや色の違いに気付き、興味を示した。
 - 紙粘土で星の形を作り、絵の具で色を作っていくと、「これは〇〇の色だね」「あっ、星座にもなりそうだね」と星と星座のつながりを確認し合っていた。



惑星チーム

1. 一人ひとりの惑星のイメージを確認するため、絵具や色鉛筆等で描く。
 2. 話し合っ、2つの惑星作ることを決める。
 3. 発泡スチロールに絵具で塗ったり、素材をつける。
 4. ブラックホール作り
- 土星を作っていく中で、図鑑や動画を見て、輪が氷の粒できていることに気づき、アトリエ内からシーグラスを見つけ氷に見立て再現に近づけようとしたり、地球では、中心には赤ちゃんがいると小さな地球をいれようと想像の世界を楽しむ姿があった。
 - それぞれが「こう作りたい」との思いから、意見がぶつかることもあったが、新たなメンバーが入って別の意見を聞いたりする中で、一緒に作るという意識になり、協同的な活動になった。





振り返り

- 7月のプラネタリウム見学をきっかけにプラネタリウム・星・惑星に興味を持ち活動をしていった。その他の活動（運動会や他の行事）もある中で、長い間、興味関心が続いたのは、子どもたちが本当に好きだったり、興味があったりしたから続いたのだろうと感じた。また小グループになることで、互いの意見を伝え合い、新たな視点や考えが広がる様子があった。

保護者との共有

活動の際にドキュメンテーションを
掲示

令和7年2月にオルト展を開催

惑星チーム 土星 1月7日



室内遊びの間に新たに作った設計図をみんなで見て、イメージを共有し、土星の輪の色塗りを始めました。

- 〇〇：「どんな色してる？」
- 〇〇：「灰色と赤と黄色と白だよ」
- 4人で塗り始めようとしていましたが、手が止まっていたので
- 保育士：「どんな模様なのかな？」
- 〇〇：「こんな模様だよ」
- と手を動かしてみんなに教えていました。
- それぞれが好きな色を選び、輪っかを塗り終えました。

- 保育士：「輪っかは氷の粒って言ってたけど、これで完成？」
- 〇〇：「ううん、氷の粒もつけたい」「ガラスっほいやつないかな」
- とアトリエ内を探すと、
- シーガラスを見つけると、
- 〇〇：「何年もたって、丸くなるんだよ」
- 〇〇：「水色とか白色が22個、欲しいな」
- と氷の粒のイメージはできたので、保育士が用意する約束をしてこの日は終了した。



ありがとうございました
